

■(藤原)九条兼実 公卿。武家時代の到来を自覚、頼朝と組んで実権を握り、インキュベータの役割を發揮するも失脚。

くじょうかねざね
.....1149=

生。父は摂政藤原忠通、母は太皇太后宮大進藤原仲光の娘加賀。忠通の子の中では、早く僧籍に入った者を除くと、異母兄の基実(近衛)、基房(松殿)に続く第3の男子である。異母姉に皇嘉門院(崇徳中宮)、同母弟に慈円がいる。父から九条の地を与えられて邸を構え、九条家の祖となった。

保元の乱・1156= 7歳:

後白河院政始1158= 9歳: 元服して正五位となり、

平治の乱・1159=10歳:

.....1160=11歳: 従三位・非参議となつてから、同年権中納言、
.....1161=12歳: 権大納言、

.....1164=15歳: 内大臣、_日記「玉葉」をつけ始める。

源頼政内昇殿1166=17歳: 右大臣と累進した。

清盛太政大臣1167=18歳:

_早くから摂関の地位を望んでいたが、後白河院と平氏との権力争いの中で、巧みにこれらと結んだ松殿基房、近衛基通(基実の子)に対し、兼実はそのどちらとも結ばず、

.....1174=25歳: 位階も従一位に昇った。

法然浄土宗始1175=26歳: 「右大臣家歌合」を催す。

.....1176=27歳:

鹿ヶ谷事件・1177=28歳:

.....1178=29歳: 「右大臣家百首」始る。

治承のクーデタ 1179=30歳: 「右大臣家歌合」を催す。平清盛は関白基房を退ぞけ、女婿の基通を関白とし、法皇の院政を停止した。

源氏一斉蜂起1180=31歳: 仏藏上人に受戒。_以仁王の挙兵があり、清盛は福原に遷都したが、兼実は同行せず、京都に留まる。藤原氏の氏寺である興福寺が平氏に反抗し、平氏がこれを討とうとした際、兼実はこれに反対したが、結局は阻止できなかった。このような兼実に対し、鎌倉幕府を開いた源頼朝がしだいに接近をはかり、やがて兼実自身もこれと提携するに至った。頼朝に支持された兼実は、

後鳥羽天皇・1183=34歳:

_平氏が安徳天皇と三種の神器を奉じて都落ちすると、平氏追討のため新主を立てる必要を後白河法皇に進言し、法皇の詔で後鳥羽天皇が踐詐する。平氏を追って京都に攻めいった源義仲は、法皇と対立、法皇を幽閉し、摂政基通を罷免し、前関白基房の子師家をこれに代えたが、

.....1184=35歳:

_義仲が討たれると、基通が還任された。事態を静観し続けるうち、鎌倉に拠った源頼朝が接近を図ってきたことから、これに応じ、

平氏滅亡・1185=36歳:

_源義経の要求によって、法皇が頼朝追討の宣旨を下した際、強くこれに反対した結果、兼実に対する頼朝の信頼は、決定的に高まり、頼朝の推薦によって内覧を命ぜられ、議奏公卿とされ、

九条兼実摂政1186=37歳:

*さらに基通に代って、念願の摂政、藤氏氏長者となった。

藤原秀衡没・1187=38歳:

記録所を設置。_しかし兼実に対する法皇や近臣の抵抗は強く、政治は意のごとくならず、孤立する。

.....1188=39歳:

長男良通を失う。

奥州藤原滅亡1189=40歳:

この年、法然を識る。太政大臣。奥州藤原氏は義経を討ち、さらに頼朝は奥州藤原氏を滅ぼす。

源頼朝上洛・1190=41歳:

頼朝は上洛して法皇や兼実と対面した。義経が討たれたことは、この問題を主たる契機とする法皇と頼朝との対立を解消させ、両者を和解させるとともに、法皇を製肘するために兼実と結んで来た頼朝にとって、兼実の利用価値は少なくなった。兼実と対面した頼朝は、法皇の没後、後鳥羽天皇の時代に期待をかけ、それまでは法皇とのきびしい対立を耐え忍ぶよう兼実に説いているが、それも口先だけのことであった。_後鳥羽天皇が元服すると、兼実の女任子は入内して女御となり、さらに中宮に立てられ、

荣西臨濟宗始1191=42歳:

_摂政を辞して関白となった。頼朝は妹婿の一条能保を支援し、能保は権中納言に昇ったが、頼朝は兼実と能保との提携を望み、兼実の子の良経は、能保の娘と結婚する。

鎌倉幕府始・1192=43歳:

*後白河法皇が没すると、関白としての実権が確立して全盛期を迎え、頼朝の征夷大將軍宣下を実現した。さらに中宮任子が後鳥羽天皇の皇子を産むことを期待していたが、

.....1194=45歳:

東大寺再建完1195=46歳:

皇女誕生となる一方、政敵である源通親の養女在子が、後鳥羽天皇の皇子為仁(土御門天皇)を生み、

建久7年政変 1196=47歳:

*通親に讒言されて、任子は内裏を追われ、兼実は関白を罷免され、基通が復活し、慈円も天台座主を辞して籠居した。以後は隠棲生活を送りながら政権回復を図ったが果さず、

.....1198=49歳:

後鳥羽天皇は土御門天皇に譲位し、通親が天皇の外戚となる。

源頼朝没・1199=50歳:

教養・趣味の広い人であり、またその念仏信仰も有名で、法然上人源空の「選択集」は兼実の求めによってあらわされたという伝えがある。

.....1202=53歳:

_法性寺で出家、円証と称した。同年、通親が没し、後鳥羽上皇が政権を握ると、上皇は兼実の子良経を摂政に登用し、九条家に復活の兆が見えてきたが、

執権政治始・1203=54歳:

_この年まで続けられた日記「玉葉」は、貴重な歴史資料である。

新古今集・1205=56歳:

その良経も急死した。ただ良経の子道家の成長に期待せざるを得なくなったが、

モンゴル帝国・1206=57歳:

法性寺で_没した。

専修念仏禁止1207=58歳:

和歌は藤原清輔、藤原俊成に学び、その詠歌は「千載集」「新古今集」などに収められており、また歌壇の保護者としての役割をも果たした。儒学は清原頼業に学び、その他、書道、音楽にも長じていた。他に有職故実に関する著書として「魚秘抄」「春除目略抄」「摂政神齋法」がある。